

Yamato Welfare Foundation
ヤマト福祉財団

発行部数14万部
非売品(季刊)

2025.10.20 Autumn

No.

87

News

JDF能登半島地震支援センターを訪ねて

**みなさんの賛助会費やカンパが
被災された障がいのある方と
支援者を支える力に**

助成先レポートVol.52

(一社)Agricola(北海道石狩郡当別町)

オーガニックエッグ認証取得でファームのブランドを確立

奨学生レポートVol.16

田島和弥さん 立命館アジア太平洋大学 国際経営学部 国際経営学科4年

想像する力、実現する力。イノベーションを起こしたい

人は自立して生活することで幸せを感じられる

2025年度 障がい者の働く場パワーアップフォーラム

障がい者の働きたいを応援する

ゆいジョブ!おしごと発見フェア2025





リレーコラム 夢をつないで 第35回

株式会社コトノネ生活
代表取締役 里見 喜久夫



10%の先へ

Profile

1948年、大阪生まれ。株式会社コトノネ生活代表取締役。自然栽培パーティ(一般社団法人農福連携自然栽培パーティ全国協議会)、全Aネット(NPO法人就労継続支援A型事業所全国協議会)の設立に関わる。季刊コトノネの出版の外、著書に絵本『ボクは、なんにもならない』(美術出版社)、『ボクも、川になって』(ダイヤモンド社)、『もんぼんアリと、月』(長崎出版)、共著に『障害をしゃべろう!』(上下巻、青土社)、『農福連携が農業と地域をおもしろくする』(コトノネ生活)など

季刊コトノネは二〇二二年一月に障害者の生きること働くことをテーマに生まれました。一番の狙いは障害者がつくった商品を目にとめて、買ってもらうことでした。そのために健常者の顧客を呼び込みたい。目に止まるように写真には神経を使いました。では、消費者は障害者のつくった商品に関心があるのか、を知りたくて資料を漁ったが、どこにもない。仕方がないので、コトノネで調査をしました。コトノネ出版から半年後、「障害者を愛する人よ、どこにいる」として調査結果を報告書にしました。とても面白い結果がでました。「障害者の商品を買いたい人」は10.6%。そのうち「買ってみたいけれど、友達に上げたい人」が36.0%。さらに、その目的に驚きました。「障害者がつくっていることを知ってほしかった」31.9%。障害者への関心をし付けるのではなく、それとなく伝えられたのです。10%の人は、誰が何というとうと、障害者を支える。逆に「買いたくない人」は13.0%。では、その間の80%弱の人はどんな人でしょうか。こどもの虐めについての研究書『日本の「安心」はなぜ、消えたのか』著・山岸俊男、発行二〇〇八年によると、「絶対虐めない人」10%、何が何でも「虐める人」10%。コトノネと似た数字でした。虐めない10%は信念の人とすれば、あとの11%以降はどんな人でしょうか。いきなり、障害者のことから問いかけない。多くの人が関心のあるテーマから入って、障害者につなげていく。「障害者を押し付けない」アプローチです。もうすぐ「リメイク・コモン」をテーマにした活動を立ち上げます。モノだけでなく、生き方も含めて、つくり直し、育て直す、「リメイク」。当然、障害者もその中にいます。最後に。突然ですが、季刊コトノネは、今年一月二〇日の56号をもって休刊します。主力を雑誌から「リメイク・コモン」活動に移します。厚かましくも、今まで以上のご支援をお願いします。

※障がいの表記について：本コラムは著者の表記を尊重しています

CONTENTS

表紙写真

2024年度の助成金を贈呈した(一社)Agricola。森の中の平飼養鶏場で、利用者みなさんと一緒に。

- 03 JDF能登半島地震支援センターを訪ねて
みなさんの賛助会費やカンパが
被災された障がいのある方と支援者を支える力に
- 08 助成先レポートVol.52 (一社)Agricola(北海道石狩郡当別町)
オーガニックエッグ認証取得でファームのブランドを確立
- 10 2025年度ヤマト福祉財団助成金
全国で助成金の贈呈式を行いました
- 12 奨学生レポートVol.16
田島和弥さん 立命館アジア太平洋大学 国際経営学部 国際経営学科4年
想像する力、実現する力。イノベーションを起こしたい
- 14 人は自立して生活することで幸せを感じられる
2025年度 障がい者の働く場パワーアップフォーラム

- 17 障がい者の働きたいを応援する
ゆいジョブ! おしごと発見フェア2025
- 20 研修・育成事業
利用者さんの給料アップを目指して
- 22 地域と繋がるボランティア 農業編
- 24 100周年を迎えるデフリンピック
11月15日、東京にやってきます!
- 26 社会福祉法人ヤマト自立センター
第17回卒業者の集い



日本障害フォーラムが
推進するイエローリボン
運動に賛同しています。

センターから奥能登へのアクセス (珠洲市、輪島市、鳳珠郡能登町・穴水町)

【巻頭企画】JDF能登半島地震支援センターを訪ねて



※震災の写真出典：石川県のホームページ「令和6年(2024年)能登半島地震 被害の概要・写真」より。

みなさんの賛助会費やカンパが 被災された障がいのある方と 支援者を支える力に

2024年1月1日16時10分、家族や仲間たちと新年の団らんを楽しんでいた石川県の障がいのある方たちを最大震度7の激しい揺れが襲いました。輪島市沿岸では最大約4mも地面が隆起。次々と土砂、火災、家屋の倒壊などの災害が発生し、交通網や水道のライフラインも寸断され、奥能登に住む方たちの被害は甚大なものになりました。

震災発生後、国や市町村、各ボランティア団体などが次々と救援活動をスタート。日本障害フォーラム(JDF)も5月13日に「JDF能登半島地震支援センター」を石川県七尾市に開設し、障がいのある方と福祉事業所の支援を始めました。このセンター設立や活動資金のために、ヤマト福祉財団はみなさんからの賛助会費、夏のカンパを原資に総額一千万円を助成しました。

...

同年9月の豪雨が被害に追い討ちをかけ、震災から1年半以上が経過しても、ライフラインは完全には復旧していません。そんな状況でも、JDFは現在も被災者に寄り添った支援活動が続けています。いま被災者たちはなにを求め、どういった支援活動が必要とされているのか。そして、新たに浮かび上がってきた課題とは…。今年4月末、現地で支援を続けるスタッフに同行しました。

やつとセンターを開所できたが 奥能登まで移動に4時間も

——今日はJDFの活動内容や被災地の状況などをお聞きしたいと思います。まずはセンター開設時の状況からご説明いただけますか？

大野 健志さん（以下、大野） 2024年2月に

JDFが、石川県下の障がい者施設や関係団体、そしてJDFの加盟団体などと情報交換会を開き、被災状況やどういったニーズがあるかを調査しました。そこで、中・奥能登の被害が甚大であること、各団体に所属していない障がいのある方たちの状況が明確につかめていないことなどがわかったのです。こうした課題やニーズに対応し、かつ継続的な情報交換会を開催できるように、JDFは同年5月に七尾市に支援拠点を構えました。本当はもっと奥能登に

近い穴水町が良かったのですが、やつと開所できたという状況です。

——東日本大震災、熊本地震のときでも1、2週間でセンターを設立できた聞いています。震災から開設までに4カ月ほど要したのはいかあったのでしょうか？

大野 奥能登に向かういくつかの道路が分断

されていて、中能登の多くのホテルが被災し営業を停止。水道は断水しトイレも使えない状態で、拠点として借りることができない場所が多かったからです。

——奥能登へは、半島の下から上に向かって行くしかないですね。

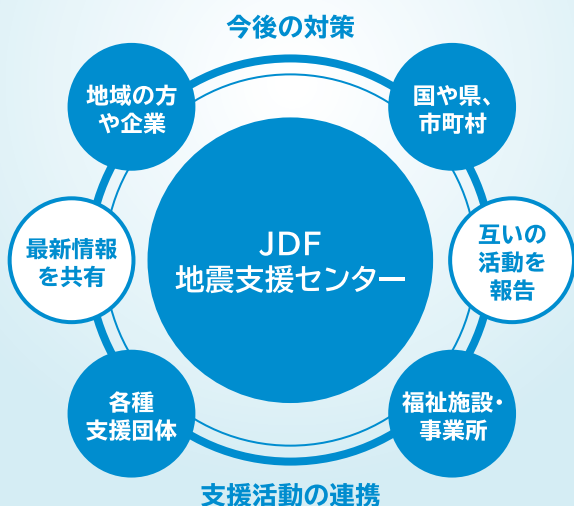
大野 なかなか拠点を確保できなかった私は、1月にとりあえず富山県高岡市のホテルを拠点に、中能登まで支援に通うことにしました。

——高岡市だと奥能登にも片道4時間以上あ

JDFとは…

JDF日本障害フォーラム(Japan Disability Forum)は、障がいのある方の権利を推進することを目的に、障がい者団体を中心として2004年に設立された団体です。

震災での支援、調査活動においては東日本大震災、熊本地震などで支援センターを現地に設立し尽力。能登半島地震も含め、各地での復興支援をいまま継続して行っています。



JDF能登半島
地震支援センター
スタッフマネジャー
大野 健志さん
(愛知県・さくらんぼの会)

りそうですね。

大野 支援時間より移動時間の方が長い、そんなジレンマがありました。そこで当時、本センターの事務局長 本田雄志さんが、地元で築いてきたネットワークをもとに多くの方のご協力を得ながら、やつと中能登の七尾市内に町内集会所の一軒家を確保してくれたんです。それでも奥能登には、まだ1時間半近くかかっています。

被災地支援に参加したくても 福祉は慢性的な人手不足

——一般の人はボランティアに参加したくても勝手には動きにくいのですが、今回はどうなのでしょう？

大野 熊本地震では行政と我々の間に調整役の団体が入りましたが、今回は各団体に任せるという形になりました。障がい者福祉関係は、支援内容が専門的なため、一般ボランティアとの連携が難しいのが実情です。JDFでは全国13の加盟団体から支援スタッフとして参加いただいています。

——何名体制なのですか？

大野 4〜6名です。ここで寝起きするには6人が限界でしょう。当初は水道が使えずお風呂どころかトイレもままならず周辺の施設もまったく利用できなくて、女性にはつらい状況でした。また地震で損壊した福祉事業所や利用者

JDF 能登半島地震支援センターの報告書から見る

被災地の状況と活動の流れ

物資・住居の支援

復旧状況・ニーズの把握報告

事業所・支援団体との連携

障がい者事業所の支援

今後の防災の再検討 など

障がいのある方の個別支援

●2024年2月〜5月

ライフライン復旧は難航。開設拠点を探しながら、石川県や各支援団体、被災地の障がい者福祉関係団体などと連携。

七尾市にセンター開設

中能登の個別支援を開始

●2024年7月〜8月

障がい者施設で新型コロナウイルスが流行。七尾市の災害ごみ仮置き場が閉鎖。損壊したトンネルはまだ復旧せず。

自宅片付け、病院送迎など



被災地における避難行動要支援者の状況

	人口	避難行動要支援者※
輪島市	1.95万人	5,515人
珠洲市	1.03万人	1,635人
鳳珠郡能登町	1.33万人	1,703人
鳳珠郡穴水町	0.68万人	577人
羽咋郡志賀町	1.65万人	798人
七尾市	4.52万人	15,319人

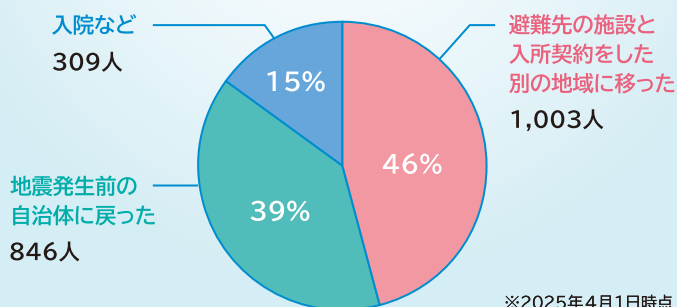
人口は2025年3月1日時点 避難行動要支援者は2023年1月時点

※避難行動要支援者：災害時に自力で避難が困難な高齢者、障がい者、乳幼児、妊産婦など、支援が必要な人の事を指す

地震発生後の利用者さんは

みなし福祉避難所(約460施設)に最大1,600人 ※2025年3月31日に解消

利用者さんたちの現状は



さんの自宅の片付けなど力仕事も多かったので女性2名までにしたのです。でも個別支援などは女性でなければできないケアもありますから、いまは人数配分を変えています。

1回の参加期間は？

大野 ワンクール約1週間です。私のように複数回参加された方もいて、延べ360人が支援活動に従事。令和7年9月で65クール目を超えます。

参加者の集まり具合は？

大野 正直なところ厳しいですね。現在、全国どこかの障がい者施設も慢性的な人手不足に悩んでいます。被災地の支援に駆けつけたと思うわれども、現実問題として自分のところの利用者さんをケアすることで手一杯。そこを抜けて、ここに約1週間滞在するのは容易ではありません。事業所が交通費を出すことができず、手弁当で駆けつけられた方もいます。

被災地の方々の声を聞き各団体と力を合わせ応えていく

被災地の福祉事業所や個人への支援現場に同行させていただき、いかに現場に寄り添って活動されているかがよくわかりました。

大野 最初は手探り状態で、きょうさんの先遣隊が始めた輪島市の事業所支援の引き継ぎから開始。その後、道路が復旧していなくてもなんとか走れるルートを探し出し、事業所や個人宅に必要な物資を届けるなど、少しでも震災前の生活を取り戻せるお手伝いをしていったのです。

個別支援を始めたきっかけは？

大野 JDF能登半島地震支援センター開設の様子をNHKが取り上げ、それを七尾市の視

各地の個別支援を開始

事業所支援を奥能登に拡大

2024年10～12月

9月21日の豪雨が状況を悪化。避難所からグループホームに転居した方も床上浸水に遭い、再び避難所へ。障がい者施設や個人宅などの支援を強化。

豪雨後の安全確認

断水のための水の配達

侵入した泥のかき出し作業

2025年2月～3月

奥能登の人口約5万人の約1割が減少と行政が発表。遠方に避難した職員が戻れず、事業所の人手不足が続く。

4カ所の事業所支援を継続

地元支援団体に参加

文書作成などの実務も協力

2025年4～5月

事業所と個別支援を求める方は増える一方。

個別支援は延べ100名超に

事業所支援は7カ所に

2025年9月

スタッフ派遣は65クール目へ。現在も支援活動を継続中。



輪島朝市跡地、地震で発生した火災で、およそ5万㎡が焼失。現在は更地になっています

覚障がい者団体の会長さんが見てくださいました。会員の方々に「こういうセンターが立ち上がったから、困ったことがあったらお願いしてください」と伝えてくれたんです。そのおかげで当事者の声が届くようになりました。その声をもとに、七尾市内の視覚障がいのある方の自宅の片付けなどを開始したんです。

——当事者とながらること、やるべきことが見えて来たのです。

大野 きょうされんの現地職員と連携しながら



※『やわやわと』は、JDFが発刊する能登半島地震・障害のある人たちの支援活動ニュースです。
https://jdf-hq-hp.normanet.net.jp/sac_n_info.html

ら、障がい者施設のニーズを徐々に明確にしていきました。さらに被災した障がいのある方と支援する事業所職員、その両方の声も聞き、できる範囲から徐々に支援活動を広げていったのです。

——具体的にどのような支援活動を進めていったのでしょうか？

大野 通院や事業所の送迎、公費解体前の片付けです。施設の職員は、利用者さんへの対応に追われていますし、自身も被災者であり、疲

労やストレスがどんどんたまっていく。それに押しつぶされないようにサポートも必要です。たとえば、午前中は利用者さんと厨房で一緒に調理作業をし、午後は生活介護で利用者の話を聞くなど、私たちにできることをしています。

遠慮せずに要望を言える そんな信頼関係を築きたい

——現場の声は情報交換会で？

大野 私が一番多く奥能登入りをしていますので、個人宅や福祉事業所に物資や水などを届ける際に、マメにお声がけしているんです。さらに被災地の福祉関係団体や役場などのキーマンの方々と積極的に会い合うようにしています。

「『やわやわと』を持って来ました。最近気になること、困っていることはありますか？」と。向こうから「用事があるから来てほしい」と言われてからではなく、こちらからどんな出向いていく、それが大事なんです。

——待っているだけでは進展しないですね。

大野 被災者の方々に話を伺ううち、どこか遠慮されているのではないかと感じるようになりました。みなさんには我々支援団体の厳しい状況も見えているから、つい我慢して声を飲み込んでしまう。でも声に出していただかないと改善はできない。

——被災者も本当は声に出して助けを求めたいんですね。

大野 まず信頼関係を築くことが必要です。たとえJDFだけで応えられない要望でも他団体(ゆめ風基金・難民を助ける会・AMAR Japan等)と協同し、資金を出すもの、物を購入するもの、現地で動き回るものと役割分担すれば実現できることも増えていきます。現在、

事業所支援は中能登1カ所、奥能登6カ所の計7カ所。個別支援して来た方は、延べ100名ほどです。

避難所生活のケアなど さまざまな課題が浮き彫りに

——支援活動を続けられて来て、これがつらかったというのでは？

大野 昨年9月の豪雨災害ですね。やっと避難所から自宅やグループホームに帰ることができたと喜んでいたら方たちが、また避難所に戻ること。もう心が折れてしまったとがっかりとうなだれる姿に、なんと声をかけて良いかわからず、自分たちの無力さを痛感しました。

——障がいのある方にとって避難所生活はかなり厳しいですね。

大野 新聞報道にもありましたが、避難所で大きな声を出す障がいのある方がうるさいと住民から苦情が出て「避難所を離れるしかなかった、車中泊せざるを得なかった」ということもありました。近くに福祉避難所があればいいのですが、開設できてもスタッフが揃わない。「外部の応援に運営を任せることができて本当に助かった」との報告も受けています。大切なのは、現地施設と外部との連携をどう進めるかです。

——東日本大震災で障がいのある方たちが避難所に入らず転々とされたケースがあり、ご本人もご家族も大変な思いをされました。この問題もまだ未解決のままなのですね。

大野 今回、元日に地震が発生し、障がいのある人の多くがご家族と一緒に被災されました。そのため施設の職員ではなく、ご家族に負担が重くのしかかってしまったのです。



支援施設の一つ。翌日からの支援の打ち合わせ



宅急便の発送も支援活動の一つ



ようやく、公費解体が進み始めています



支援に出発前のミーティング

JDFのアンケートより

被災した利用者さんの声

水が出なくて
お風呂やトイレが
使えずに困った

避難所生活が
長かった

食料や衣服を
もらえたのが
うれしかった

二度と地震はいや!
お正月を返して!

被災した施設・事業所職員の声

被災した職員が
遠方に避難し、
シフトを組むことが
できない

みんな心から
感謝しています

JDFの支援スタッフは、
それぞれ専門的な
バックグラウンドを
持っていてとても頼もしい

JDF支援スタッフの感想

障がい者手帳所持者の
一部の実情しか
我々のものに届いていない

支援物資だけでなく
心の支えも必要だと
痛感した

震災で多くの職員が
辞めてしまっても
現場は頑張っている、
その応援をJDFが
できて良かった

聞こえない、聞こえづらい方は、
対面でのコミュニケーションが
必要なため、
対応が遅れてしまった

話を聞くことしかできない私に
「いままでだれにも言えなかったので、
心が軽くなった」と感謝いただけた

——被災したタイミングで障がいのある方を支える人がだれになるかは変わってくる。現場に入って見えて来た問題は他にもありますか？

大野 施設の職員は、トイレの対応が大変だったと口をそろえて話しています。仮設トイレに袋を設置して使い終わったら捨てる、これを1日に何度も繰り返さなければならず、本当につらかった。また、断水により排泄物が流せない状況が長く続きました。ご家族と一緒に住んでいる方はまだ良いのですが、一人暮らしされ

ていた方の住まいのトイレは山盛りになっていて、職員が片付けにまわったそうです。今回の震災で改めて露呈した課題がいくつもありました。その一つひとつの課題を解決するための提言も私たちの使命です。

だれ一人取り残さないように支援活動を続けていきたい

——最後にヤマトグループの社員へのメッセージをお願いします。

大野 ヤマトグループの社員みなさん、ヤマ

ト福祉財団さんには本当に感謝しているんです。阪神淡路大震災から始まり、東日本大震災、熊本地震、そして今回の能登半島地震と、JDFの支援活動をいろいろな形で応援いただいています。各被災地では、未だに多くの問題を抱えており、JDFは今後も活動を継続していかねばなりません。障がいのある人と、その家族、支援する職員・事業所が、だれ一人取り残されることがないように、私たちは支援していきますので、今後も引き続き応援をよろしくお願いいたします。

オーガニックエッグ認証取得でファームのブランドを確立

切り花や米の生産が盛んな当別町。大消費地である札幌都心へも車で45分ほど、札幌市に隣接する自然豊かな町です。この地で養鶏業に取り組むA型事業所「Farm Agricola」は、今やオーガニックエッグの生産者として、日本有数の規模にまで成長しています。

Data

一般社団法人Agricola Farm Agricola（北海道石狩郡当別町）

2025年度 障がい者給料増額支援助成金(500万円)

助成内容：ハンドフォークリフトとジョブサンの購入資金

就労継続支援A型在籍18名

(2024年度)売上 8,059万円／月額平均工賃 98,425円



代表理事の水野智大さん(右)、職業指導員の水野香おりさん。夫婦でファームを立ち上げました



ファーム・アグリコラ自慢の卵たち。ケースには生産者からのメッセージも封入



「耕作放棄地の森の中を歩いていて、最初はオーガニックのコーンや大豆、薪をつくろうかと思ったんですけど、この森の中を鶏が駆け回ってたら、世界中探しても見たことのない風景になるだろうなって。それで、鶏の世話をするようになった利用者が前向きになったというのも大きい変化ですね」(水野代表理事)



2022年度助成で整備された飼料粉碎機



レシピ通りに攪拌機で自家配合飼料を製造(2022年度助成)



ジョブサンで鶏糞をオーガニック堆肥に。廃棄されるだけだった鶏糞が売り物になります(2025年度助成)

患者のそばで何ができるのか？

初夏の木漏れ日が差しこむ森を、闊歩する鶏たち。ここは「ファーム・アグリコラ」の放牧地。自慢の高品質な卵は、道産原料にこだわった自家配合の飼料、自然に近いストレスを極力与えない飼育環境の賜物です。

約3.5haの耕作放棄地を譲り受け、当別町で養鶏業を営むのは、水野智大さんと香おりさんご夫妻。ともに看護師からの転身です。養鶏は独学で始めました。

精神科に勤めていた智大さんは当時、一冊の本と出会います。当財団初代理事長・小倉昌男の『福祉を変える経営』です。

「やっぱり精神疾患を抱えている人たちは働くところがないんです。それでいずれば就労支援事業所をやるうとかいろいろ考えていたんですけど、3.5haの土地があれば農業ができるなと。太陽を浴びて、風を感じて、仕事をすれば、回復にもつながるだろうって考えたんです」と智大さん。

一念発起して、ファームを開所したのは、2017年4月のこと。作物栽培は北海道では家庭菜園が最大のライバルなので、出荷時期を早めるにはハウスが必須。暑さを考えるとハウスは早朝作業になるので、利用者さんが主体となるのは難しい。そのうえ野菜は作業サイクルが1年になってしまうので、翌年には積み上げたものがゼロになってしまう、また一から覚え直してもらうことも…。

でも、畜産は1日で仕事が完結するんですよ。それを日々繰り返すので習熟度合いも上がっていくんです。これは利用者さんの就労支援にすごくマッチしているなと感じたので…。



鶏舎で落ちているたまごを拾う午後の作業

Farm Agricola売上と利用者給料の変化 (就労継続支援A型)

	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
ヤマト福祉財団助成金		攪拌混合機、スクリュコンベア・粉碎機の購入資金			ハンドフォークリフトとジョブサンの購入資金
	実績	実績	実績	実績	計画
養鶏売上(万円)	3,600	4,400	7,070	8,060	9,000
在席数(人)	17	17	15	17	20
一人当たり月額給料(円)	77,768	95,269	105,418	98,425	108,333

労働組合支部執行委員長 助成先訪問 Series 47

ヤマト運輸労働組合
札幌支部執行委員長(取材当時)
葛西 和雄さん



再訪は改めて勉強になりました

私が訪問した2022年頃はビニールハウスの鶏舎で2000羽くらいだったと思います。平飼いのすごくいい卵で、当時は当別の駅で売っていたのでよく買いました。あれからすごく大きくなられて感慨深いです。

利用者さんたちが、お互いにアドバイスや提案をする業務改善委員会を開いているというのにも感銘を受けました。水野代表理事にお聞きすると、皆さんにモチベーションとかやり甲斐が生まれてすごく良かったと仰っていて、チームワークを育てるうえで、これは当社にも大事なことだと勉強になりました。

札幌支部は皆さん、夏のカンパにも協力的ですが、アグリコラさんの例など、夏のカンパの積み重ねがこのように利用されているんだと伝えていきたいと思います。



だから鶏だったんですね」

就労系サービス事業所として全国初認証

最初はビニールハウス鶏舎で200羽から始まったファーム・アグリコラ。5年で20倍の4000羽まで規模拡大しましたが、人の手による飼料製造が限界に達していました。そこで当財団の助成制度に応募。飼料製造の機械化を図り、攪拌機や粉碎機、スクリュコンベアを2022年11月に整備しました。

応募書類には当時、2025年度に飼養羽数1万羽。固定給10万円と社会保険の完備を計画目標として掲げました。

「実際、機械を入れたことで、1万羽までいけるぞっていう見通しが立ちました」。

結果は有言実行。今年の秋にも1万羽到達の予定です。平均給与も現在9万8000円を超え、法改正の動きにも対応して厚生年金加入も来年にも実施します。

飼養羽数は売上に直結すると智大さん。躍進の影にはしたたかな経営戦略も伺えます。

2019年にファーム・アグリコラは卵のオーガニック認証を取得しました。飼料の80%以上が有機飼料であることや放牧環境など、厳しい審査にクリアする必要があります。

「取得後、すぐに飛び込み営業をかけまくりました。当時、オーガニックエッグを流通しているのは4、5社しかなかったんです。一番営業したのは、リッツカールトン東京さん。すぐに採用されて、ステップアップのきっかけになりました」

著名なホテルに売り込みましたが、意識の高い海外資本のほうが感触が良かったそう。

「リッツさんに採用されて自信もつきました。ミシュラン片手に営業して、札幌市内の三つ星店にも採用されるようになりました。」

僕はランチエスター経営が好きで勉強していたんですけど、弱者の戦略はやはり差別化を図って、そこからライナップを広げていく。こ

れが勝因の一つだったと思います」

現在はオーガニック卵、平飼卵、飼料に亜麻仁油の搾りかすを加えた亜麻仁卵の3商品を開。オーガニック卵の存在が信頼とブランドイメージの向上に働き、他の商品の売り上げにもプラスしていると言います。

福祉は福祉、商いは商い

ファーム・アグリコラは今年度の助成に再び採択されました。それで新たに導入したのが6月から稼働を始めたハンドフォークリフトとジョブサン(トラクターシヨバル)です。

現在はバケツで運んでいる飼料原料なども、ハンドフォークリフトならば免許不要で、一気に運ぶことができます。ジョブサンは小回りの利く小型トラクターシヨバルで、除雪や鶏糞の

処理などに活躍する予定です。

「鶏糞は廃棄するだけの厄介物ですが、粉砕と混ぜて攪拌・発酵させることで、堆肥化して売っていくと思っています」

と同時に機械化には、利用者さんの先を見据え、50代6代になっても働きつづけられる環境をとの願ひも込められています。

「やっぱり福祉と経営。その両面をそれぞれしっかりとやっていきたい。ただ福祉は福祉。商いは商い。福祉が商いになってはいけないし、商品としての卵に福祉は入れない。これを守ってきたから利用者さんもついてきてくれたと思います」と智大さん。設備投資で膨らんだ借入金軽減となる10年後には、孵化したばかりのヒヨコを育てる「育雛舎」を建てたいと語る姿は、まだ夢の途上です。

全国で助成金の贈呈式を行いました

道北主管支店

(社福) 南富良野大乗会



札幌主管支店

(一社) Agricola



宮城主管支店

(NPO) UBUNTU



郡山主管支店

(社福) にんじん舎の会



茨城主管支店

(社福) はまぎくの会



群馬主管支店

(社福) ゆずりは会



千葉主管支店

(社福) オリーブの樹



川崎主管支店

(一社) ピッカ



東京地域 主管支店合同

東京地域内の贈呈先団体・法人一同



名古屋主管支店

農園バンドグリーン エンジェルス



京都主管支店

(一社) FUKURO



山口主管支店

(社福) 千花千彩



松山主管支店

(株) Akari



福岡主管支店

(社福) 翔空会



長崎主管支店

(社福) 野の花



鹿児島主管支店

鹿児島管内の贈呈先団体・法人一同





私たちの賛助会費が生かされています 奨学生レポート vol.16

学びたいことがあるから、
挑戦したいことがあるから…。
そんな想いで大学に進学をした
障がいのある大学生がいます。
そんな彼らを奨学金制度で
応援しています。



田島 和弥さん

立命館アジア太平洋大学
国際経営学部 国際経営学科4年

半数が国際学生という多様性が特徴の立命館アジア太平洋大学でグローバルビジネスを学んでいる。原因ウイルス不明の劇症肝炎を患い、生体肝移植手術を経験。人の役に立つ仕事について、生かされた命の恩返しができるよう努力したいと考えている。

障がい者奨学金制度

社会の役に立ちたい、自己実現を図りたいと、障がいを乗り越えて大学で熱心に学ぶ方々に月額5万円(返済不要)を助成しています。

『能動的に何かに挑戦している先輩方が輝いて見えました』とAPUのオープンキャンパスの印象を語る田島和弥さん。キャンパス中央の本部棟、研究棟の前で

想像する力、実現する力。イノベーションを起こしたい

幼くして向きあった大病

「メーカーからIT、医療系やコンサルティングまで。インターンシップは数え切れないほど行きました」。

落ち着いた語り口が印象的な田島和弥さん。ハードな就職活動を乗り越え、3月に大手電機メーカーグループのB to Bビジネスを扱う事業会社の内定を得ました。

立ち居振る舞いからは、ご本人に伺わないかぎり、障がいを微塵も想像させません。

小学6年生までカナダに暮らしていた田島さんは、3歳のとき突如、劇症肝炎に。お母様から肝臓の一部を譲りうける生体肝移植手術に臨みましたが、感染は骨髄にも転移し、再生不良性貧血で危篤に陥ったことも。奇跡的な回復まで5年ほど入院を余儀なくされました。

「疲れやすかったり、体調にムラはありますが、今はもう一般的な運動もできます」。

定期的な肝臓の検査と、免疫抑制剤はこの先も欠かせません。

移植された臓器は、免疫からすれば「自分由来ではない」攻撃対象。拒絶反応を抑えるため、免疫の機能を下げるのが免疫抑制剤です。

あえて防御能力を落とすわけですから、風邪などのちょっとした感染症でも重症化しやすく、日々の生活には注意も必要です。

山の上の小さな地球で学ぶ

中学から宮崎に戻ってきた田島さんは日本語に不慣れで、国語の時間には相当苦労したとか。しかし猛勉強でメキメキと上達。高校では「暗記力を身につけながら、日本の文化に触れよう」と思って入部した「百人一首部」で、団体として全国大会に2度の出場も果たしました。

高校1年のときから大学のオープンキャンパス

スに積極的に参加していたという田島さん。
現在通う「立命館アジア太平洋大学（APU）」は、とくに惹かれた大学の一つでした。
「カナダはモザイク文化で、いろいろな文化、国籍や背景を持った方々が一つの絵を作るみたいなどころがあります」。

APUは100を超える国・地域から留学生が来ているので、たくさんの方の言語が聞こえてくる小さな地球のようなキャンパスです。多様性に溢れ、目的意識を持って能動的に物事に挑戦していく先輩方の姿勢に刺激を受けて、私もこのような環境に進みたいと思ったんです」。

新型コロナウイルスが猛威を振るう中での受験。罹患

すれば重症化は避けられず、都会への進学はドクターストップがかかったこともあり、別府の町並みと海を望む高台に構えるキャンパスで、国際的なビジネススクール認証も得ているAPUに進学しました。

実践力を磨く日々

田島さんの学ぶ国際経営学部では、ビジネス課題について解決策を提案にまとめ上げるといった授業が数多くあり、非常に鍛えられたと言います。

その集大成が「4年間の学びを総動員して企業が実際に直面するビジネス課題の解決策を

考え、競う、キャップストーンという授業です」。

キャップストーンとはピラミッドの頂上に置く石のこと。転じて、総仕上げにあたる教育プログラムを意味します。

自身も含め国内学生3人、国際学生5人のチームで挑んだ課題は、インバウンド向けの新規旅行商品。100枚以上のスライドを作成してプレゼンに臨みました。旅行業最大の担当者も審査に加わり、学生36チームの提案に厳しい目が光りました。

「実現性を重視した企画内容には高い評価をいただいたんですけど、残念ながら最優秀には選ばれませんでした」。

忙しい学業の合間を縫って、田島さんは2つの学生団体に参加しています。一つは卒業生と在学生の交流を促す活動をしているLoop.A.S（ループ・ア・ス）という団体。

もう一つが大学の事務局と連携して、オープンキャンパスを企画運営しているGASSという団体です。

「GASSは企画段階から主体的に動き、当日もAPUの顔として最前線で来学者に大学の魅力を伝えます。私は2年生のときから、学生や保護者の相談に乗る業務を担当しています」。

当たり前を、より良いへ

当財団の奨学金は、インターンシップや就職活動の旅費に充てたという田島さん。おかげで挑戦することに注力できたと大きく感謝しています。

田島さんにはカナダでの体験に根ざしたビジョンがあります。

「いつかは移住や入院している子どもたちを励ますボランティア団体を日本でも立ち上げたい」。

就職活動でもこのビジョンを明かしました。就職先は、理解を示してくれた人事担当者のいた大手メーカー系に決めました。

就職活動では障がいへの配慮が乏しい企業の実在も垣間見れたと言います。自分の障がいを理解してもらうことに苦心しました。

「結局は正直、素直に伝えるしかないなと思います。障がいや帰国子女について、広い視野で受け入れてくれる人が周囲には多くいて、自分は恵まれていました」。

社会基盤を支える事業に取り組む就職先で、これまでの当たり前をより良いものに変えていく役割を私も頑張りたい。そして、力を蓄えたいと思っています」。



大分産木材を多用した新しい教学棟グリーンcommons。グループワークやディスカッションのしやすい馬蹄形の教室で



自主的な言語学習をサポートしてくれる言語自主学习センター（SALC）。ゲームなどの交流を通じての学習にも対応



卒論代わりのキャップストーンでは、海外学生に都市部ではなく日本の地方を訪れてもらい、地域の文化や課題を学べるような旅行商品を企画しました



インドからの国際学生で、GASSでいっしょに活動しているKAKKAR Yashaswaniさんと、グリーンcommonsステージで

2025年度

人は自立して生活することで幸せを感じられる 障がい者の働く場 パワーアップフォーラム



7月4日(金)東京会場 灘尾ホール(千代田区霞が関)



9月12日(金)名古屋会場 デザインホール(名古屋市中区)

小倉昌男初代理事長の意志を 継承し続けるフォーラム

リピーターから新規参加者まで、全国からたくさんの方が参加し、障がいのある方の幸せや働く場について考えを深め合うパワーアップフォーラム。1996年に小倉昌男初代理事長がパワーアップセミナーを初開催されたときから数えて、今年で29年目になります。スタート時は「脱・給料1万円」を目指す少人数のセミナー形式で、今回ヤマト福祉財団 小倉昌男賞受賞者として講演いただいた松浦一樹さんも当時の受講者の一人です。2010年により多くの方が学びの場・出会いの場として活用できる大会場でのフォーラムへとスタイルを変え、本年度は7月4日に東京、9月12日に名古屋の2会場で開催し、来場者は合計2000名を超えています。

どんなに忙しく厳しい状況でも 当事者の声に耳を傾けてほしい

本フォーラムのテーマは「人は自立して生活することで幸せを感じられる」です。山内理事長は「障がいのある方を取り巻く環境が着実に良くなっている一方で、福祉施設・事業所は慢性的な人手不足に悩み続けています。しかも昨今は諸物価がどんどん上昇し、運営者はこれまでにない苦境に立たされているのではないのでしょうか。本日は、この状況を跳ね返け、先進的な取り組みをされている方々に登壇いただきませう。そのお話からこういう考え方っていいかも、これならうちでできるかもしれない、そんなヒントを一つでも持ち帰っていただき、明日



山内理事長



基調講演
「障害のある人の今・働くことの意味を考える」
(NPO)日本障害者協議会
代表 藤井克徳さん

からのご自身の活動に生かしていただけたらと願っています」と主催者挨拶を行いました。

続いて基調講演として「障害のある人の今・働くことの意味を考える」と題し(NPO)日本障害者協議会の代表 藤井克徳さんが講演。旧優生保護法や能登半島地震、精神科医療など障がいのある方が直面するさまざまな問題を解説しました。さらに「昨年の企業で働く障がいのある方の実人員は約67万7461人、福祉的就労と合わせても障がいのある方全体の労働人口の約35%に過ぎません。2026年7月より法定雇用率は2.7%となりますが、どこまで徹底できるのかは手探りです。A型もB型事業所も、障がいのある方にとって、より魅力ある現場を築いていくこと。どんなに忙しくても一人ひとりの声に耳を傾け、各人の能力を伸ばし、職業選択の幅を広げることが必要とされています」と伝えました。

小倉昌男賞受賞者講演

企業との共存から共生へ！
～お互いがお互いを支え合う関係へ
(株)カムラック 代表取締役 賀村 研さん

メッセージ「巻き込む」

1人が、1事業所ができることは限られています。夢を有し、多くの人を巻き込んで実現していきましょう。



小倉昌男賞受賞者講演

暮らしの幅を広げるチャレンジ
(社福)慶光会 理事長 柴田 智宏さん

メッセージ「出会いをつなぐ」

一対一の出会いもその人から次の人へとつながれば、もっと大きな輪となっていく。今日の出会いを活かしていけるといいですね。



実践報告

働く力を伸ばし、支える支援
(社福)武蔵野千川福祉会
チャレンジャー 所長 佐藤 資子さん

メッセージ「挑戦、チャレンジ」

私の事業所の名はチャレンジャー。利用者さんだけでなく私自身ももっと「挑戦」。B型事業所の最先端に行くチャレンジを続けます。



東京会場 当事者の声



(社福)武蔵野千川福祉会
チャレンジャーの田中萌絵さん
「ここでDMの封入封緘作業に従事して12年目です。どの場所でも誰とでも働けるように頑張っています。夢はHIP-HOPダンサーです」



(株)カムラックの安武一道さん
「担当は事務です。チームで働くことで互いの得手不得手をカバー。今後は自分のスキルを活かし、情報を知らず働けない人の役に立ちたい」

会場ごとにサブテーマを決め 現場が抱える課題に向き合う

本フォーラムでは、会場ごとにサブテーマも設定しています。東京会場は「働く力を掘り起こす」です。

東京会場の小倉昌男賞受賞者講演では(株)カムラック代表取締役の賀村 研さんが「企業との共存から共生へ」お互いがお互いを支え合う関係へを、さらに(社福)慶光会の理事長柴田 智宏さんが「暮らしの幅を広げるチャレンジ」を講演しました。また(社福)武蔵野千川福祉会チャレンジャー所長 佐藤 資子さんが「働く力を伸ばし、支える支援」と題して実践報告。障がいのある方が自らを高めながら就労を通じて社会参加していく、そのために働く力をどのように掘り起こしていくか。来場者はメモを

名古屋会場 当事者の声



(社福)ゆたか福祉会
リサイクルみなみ作業所の近藤敏さん
「利用者の自治会長も務めていますので、少しでもみんなの力になりたい。健康第一で、リサイクル作業の仕事を少しでも長く続けていきます」



(社福)いなりやま福祉会
満天の星の諏訪慎次さん
「一番感動したのは、自分たちで募金を集め、事業所を建てた時。いまの箱折りの仕事をとても気に入っていますし、仲間も給料も増えてうれしいです」

取りながら講演者の話に聞き入っていました。名古屋会場のサブテーマは「障がいのある人が自立するために働く場に求めていること」です。小倉昌男賞受賞者講演では(社福)いなりやま福祉会の常務理事 酒井 勇幸さんが「利用者が主人公く福祉は人なり」のテーマで、(NPO) ENDEAVOR EVOLUTION 理事長の松浦 一樹さんは「刑事から福祉へ」27年迫り求めた真の共生社会とは」と題してそれぞれの考えなどを講演。実践報告は(社福)ゆたか福祉会リサイクルみなみ作業所の副所長 稲垣 伸治さんの「支援の充実と、効率化を求めて」です。いま当事者はなにを求めているのか、その多様化するニーズに応えるため、独自にどんな挑戦を続けているのか。福祉関係者が直面するさまざまな問題にも焦点を当て、掘り下げました。

小倉昌男賞受賞者講演

利用者さんが主人公～福祉は人なり
(社福)いなりやま福祉会
常務理事 酒井勇幸さん

メッセージ「働く願いをみんなのものに」
働きたい・友達ほしい・社会参加したい。
その願いを叶えるため、地域の方と理解・協
力し合える関係に。



小倉昌男賞受賞者講演

刑事から福祉へ～27年追求めた真の共生社会とは
(NPO)ENDEAVOR EVOLUTION
理事長 松浦一樹さん

メッセージ「自分の信じた道をまっすぐに進んでほしい」「いつも笑顔で」
もっといろんなことができるはず。失敗しても
良い経験になるのでどんなことも笑顔で
乗り越えてください。



実践報告

支援の充実と、効率化を求めて
(社福)ゆたか福祉会
リサイクルみなみ作業所 副所長 稲垣伸治さん

メッセージ「引き出せ 働く力」
私たちのメインの仕事は、働く力を育て引き
出すこと。今後もフォーラムなどで一緒に学
んでいきましょう。



福祉現場で頑張る仲間たちへ シンポジストたちがエール

会場から最も大きな拍手がわき起こったのは、当事者の報告コーナーです。会場ごとでそれぞれ2名の当事者が、大勢の人の前で緊張しながらも、自身の近況などを伝えました。報告を終えた当事者には、藤井さんがインタビュ。いまだどんな仕事にどういった気持ちで取り組んでいるのか、働く喜びやこれからの夢を語る彼らの声は、来場者の胸に強く響きました。

最後のシンポジウムでは、講演されたみなさんがシンポジストとして登壇。それぞれの利用者さんへの思い、活動の信念など、講演で話したりなかった内容を伝えていきました。さらに、来場者からの質問にも回答。若い利用者さんや職員との世代ギャップ、福祉をビジネスとしてどう展開していくかなどの悩みに、シンポジスト流の対応法や考え方でアドバイスしました。そして、最後に一人ひとりの思いを込めたメッセージを色紙に執筆。同じ障がい者福祉の現場で頑張る方たちへ熱いエールを贈りました。

フォーラム終了後は、これを機会にシンポジストや来場者間での交流が広がっていくように名刺交換会を開催。多くの方がこれからの事業所運営や事業改革を進めるヒント、それを実現する新たな仲間とのネットワークを築く手がかりを持ち帰りました。

「目指すのは、障がいのある人もない人も、だれもが幸せになれる社会」。小倉初代理事長の願いを引き継ぎ、パワーアップフォーラムをこれからも続けていきます。

参加者から
こんな声が集まりました

前向きな当事者発表がとても良かった。
もっといろんな声を聞かせてほしい。

講演者共通の「新AKB=A: 諦めない、
K: こびない、B: ぶれない」実践します！

福祉事業が良くなれば、社会も良くなる。
その言葉に勇気をもらいました。

優生保護法、障害者権利条約など、
難しい内容をわかりやすく学べました。

自分たちだけでなく、
地域の方や企業も巻き込む活動を展開したい。

私たちが利用者さんのためにできることは、
まだたくさんあると気づいた。

「利用者さんが主人公」「出会いが成長」
という言葉が心に残りました。

学びたいことは一杯。フォーラムの継続と、
新しい企画にも期待！



約630名の来場があった、沖縄コンベンションセンター会場

障がい者の働きたいを応援する!!

おしごと 発見フェアを 開催しました

ゆいジョブ! presents おしごと発見フェア 2025
9月18日 10:00 ~ 15:00 沖縄コンベンションセンター展示棟



相談コーナー 受付 就職準備なんでも相談会



荷物の大きさを計測する、
沖縄ヤマト運輸のおしごと
チャレンジ体験



初出展の沖縄県警では鑑識のおしごと
チャレンジ体験



スタッフ・ボランティア・参加企業のみなさん



約50名の学生・社会人ボランティアの協力で、イベントもスムーズに



朝比奈実行委員長による、オープニング挨拶



合同企業説明会に初出展の沖縄
出光(株)のブース

後援：沖縄県／沖縄県教育委員会／沖縄労働局／那覇市／独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 沖縄支部／(一社)沖縄県中小企業家同友会／沖縄経済同友会／沖縄県商工会議所連合会／(一社)沖縄県経営者協会／沖縄県商工会連合会／琉球新報社／沖縄タイムス社

※本フェアは、ゆいジョブ! 実行委員会とヤマト福祉財団が主催し、行政や沖縄県内の企業・団体等による多くの後援を得て企画されたものです。

〈おしごと発見フェア〉も回を重ね、今年で4回目の開催となりました。会場は沖縄県宜野湾市の沖縄コンベンションセンター。働きたい障がい者と採用したい企業をつなぐ参加型のイベントです。認知度も上がり、出展された企業・団体は30社を数え、参加者も約630名の方がご来場。熱心に自社の説明をする担当者、おしごとチャレンジに奮闘する参加者の姿が、会場のあちらこちらに。将来を見据えて高まる皆さんの熱量が伝わってきました。

ウイングアーク1st(株)



入社4年目の神里知也さん

障がいのある社員が、企業説明を実施

同社は東京に本社を置くIT企業。出展は3回目です。沖縄では、IoTを駆使したスマート"自然栽培"に取り組み、パニラやリュウキュウガネブという沖縄固有のブドウでワインの原料になるものを主軸に栽培しています。

ブースでは新卒で入社して4年目になる障がいのある社員・神里知也さんが、自らの言葉で事業内容や自身の成長について説明を行っていました。主にマンガの栽培を担当しており、現在は後輩への作業指示も担うリーダー職だと言う神里さん。

「入社当初はPC操作も人差し指で行う状態でしたが、この説明会で使うスライドも僕が作りました」

同社では、障がいの有無で業務に差が出ないように、本人の特性に配慮しつつも、可能性があれば様々な仕事に挑戦してもらう方針をとっていると、ダイバーシティ雇用部の担当者・今田達也さん。「このフェアから5名の採用につながりたい」と意気込んでいました。

おしごと発見フェアで繋がりました！



セコムスタティック琉球(株)

施設警備がメインなため、お客様とコミュニケーションが取れる人材を求めて初出展。18〜70歳ぐらいまでの方が働いており、障害のある方へも幅広い世代の採用をアピールしていました。



(株)沖縄タイムス社

報道機関の責務として先陣を切りたいと、障がい者雇用に積極的です。業務では電話対応が欠かせません。参加者からも、そうした業務の性質や、障がい者への配慮に対する質問が活発に飛んでいました。

来場された方の声

支援学校の先生にお話を伺いました

生徒・教員、ともに貴重な機会

沖縄県立陽明高等支援学校



教諭・砂川慎太郎さん

〈おしごと発見フェア〉は、生徒が一度に多くの企業と出会い、働く意欲を育む貴重な機会です。特設のウェブサイトを見て「この会社は何をしているの?」と主体的に調べる生徒もあり、会場での模擬面接やスーツ展示は、社会人としての振る舞いや身だしなみを意識するきっかけにもなっています。

私たち教員にとっても、企業が求める人材を直接聞けることは大きなメリットです。

具体的な理解が意欲につながる

沖縄県立やえせ高等支援学校



教諭・親泊昌彦さん

授業だけでは企業や職種について具体的なイメージを持ちにくいのが実情です。このフェアは、多様な業種の方から直接話を聞き、お仕事体験もできるため、生徒が自分に合った働き方を見つける絶好の機会。生徒が「この企業でインターンシップをしたい、働きたい」と自分の力で決められたらいいと考えています。

過去最多の来場者に会場熱気

単に説明を聞くだけでなく、「会って、体験して、相談できる」というコンセプトがユニークなおしごと発見フェア。今回は県内30の企業・団体がブースを設け、昨年を大きく上回る約630名の参加者が、自分らしく働ける仕事を見つけに訪れました。

会場は大きく3つのコーナーで構成。企業との出会いの場「合同企業説明会」では、採用担当者に事業内容や職場環境について直接、確認できます。昨年より各ブース間にゆとりをもたせ、より落ち着いた雰囲気、より話に集中できる環境となっていました。

毎年、好評を博している「おしごとチャレンジ体験会」は、参加者にとって新たな発見や可能性を探れるチャンスです。初めての体験にワクワクした表情や、真剣な眼差しで実際の業務に挑む参加者の姿が印象的でした。

「就職準備なんでも相談会」は、一人ひとりに寄り添って就業生活支援者が、就活の不安や悩みに応えます。こちらもブースが埋まるほど希望者が訪れました。つぎの一步を踏み出す勇気を得た方も多かったのではないのでしょうか。

未来を拓く懸け橋として

沖縄パワーアップフォーラムの分科会活動に端を発するおしごと発見フェアは、社会に出る経験やチャンスが少ない障がいのある方に、働くことや職場のリアルに触れる機会を届けたいとスタートしました。

イベントの充実度も開催ごとに着実にパワーアップし、今回は行政機関からの初出展



オフィスキャリアール・(株)普天間商会

オフィスキャリアールは面接対策や身だしなみを指導し、普天間商会は車椅子用のスーツを展示。タッグを組んだ合同出展で、就活に参加者が自信を持って始められるようレクチャーしました。



沖縄県警察

見えにくい行政機関での障がい者雇用を紹介したいという、主催者側からの依頼を沖縄県警察が快諾し、初出展が実現しました。鑑識課による指紋採取や防弾チョッキ着用など、体験会は興味津々なものばかり。警察などの行政分野に挑戦する方の増加に期待しています。



沖縄ホンダ(株)

今年はブースに実車を持ち込み、ボディコーティング体験を提供。磨いた部分がツルツルになるのを参加者は実感していました。



サンエー運輸(株)

県内大手スーパー「サンエー」の配送を担うサンエー運輸。カゴ洗浄や流通センターから店舗へ配送するための準備作業を体験！



(株)ビースタイルチャレンジ

農業をメインに活動する特例子会社です。昨年のフェアがきっかけで入社した社員の伊是名さんもブースで活躍しました。

合同企業説明会企業・団体一覧(16社・順不同)：

株式会社 沖縄タイムス社/PwC Japan合同会社/ザ・テラスホテルズ株式会社/株式会社ソルパック/有限会社フィーチャー企画/医療法人おもと会/フィールズ株式会社/株式会社沖縄海邦銀行/株式会社サンエー/ウイングアーク1st株式会社/沖縄出光株式会社/有限会社大宮工機/セコムスタティック琉球株式会社/株式会社 那覇ミート/株式会社シーサー/沖縄ヤマト運輸株式会社

おしごとチャレンジ体験会出展企業・団体一覧(15社・順不同)：

沖縄県警察/沖縄ホンダ株式会社/サンエー運輸株式会社/株式会社 琉新の風/島袋木工所/有限会社 たけ事務/PC SHOP IGE/株式会社 ワールドスタッフィング/株式会社 普天間商会/オフィスキャリアール/株式会社 アイセック・ジャパン/株式会社ベルシステム24/株式会社かりゆし/株式会社ビースタイルチャレンジ/沖縄ヤマト運輸株式会社

として、沖縄県警察が「おしごとチャレンジ体験会」にブースを設けました。普段はテレビの中でしか見るここのない鑑識作業の体験に参加者は興味津々でした。

人気のブースには長い列もできましたが、スムーズな運営を支えたのは、約50名のボランティアスタッフの方々です。学生やジョブサポーターをはじめ、ゆいじョブー実行委員会が毎月行っている勉強会のメンバーがボランティアとして参加。細やかな誘導で来場者を温かくサポートしていました。

イベントの様子は、地元のテレビ局などでも報道され、へおしごと発見フェアに寄せる期待の高まりを感じました。

研修・育成事業

利用者さんの給料アップを目指して

研修・育成事業では、小倉昌男賞受賞者や有識者を講師として、全国の施設運営者・職員を対象に、利用者さんの給料アップを目指した事業の新規開拓や見直し、専門技術などを学びます。

現在、「農福経営実践塾」「販路拡大研究会」「働く力と工賃向上テキスト制作委員会」の3つが進行しています。

農福経営実践塾

**農業で売上を伸ばし
工賃向上をめざす実践を**

農業を事業とする施設の責任者を対象に、農業で工賃向上するための事業経営を学び、利用者の工賃（給料）アップを目指す新しい「農福経営実践塾」がスタート。公募を行い12施設が選考されました。講師には小倉昌男賞受賞者である熊田芳江氏、林博文氏、農福連携実践塾1期生でたまねぎ栽培塾の塾長の小淵久徳氏の3人体制です。

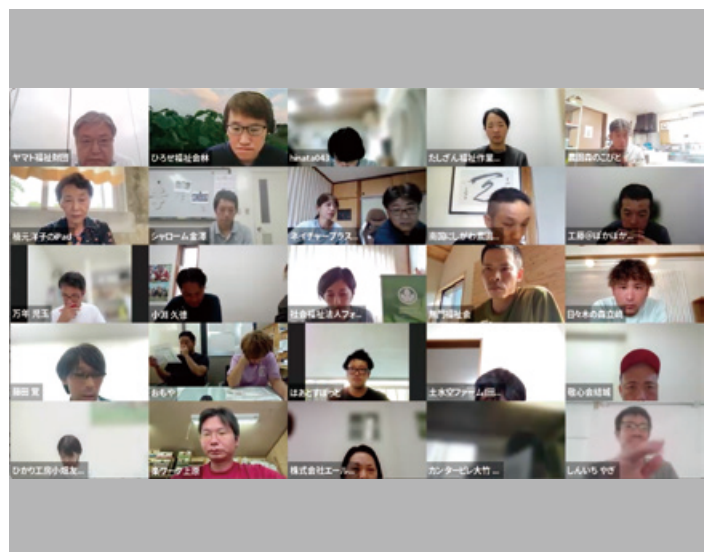
第1回は、4月18日・19日宮城県仙台市の仙台MTビル会議室で開催。塾生の現状を共有し、目標工賃をいくらずに設定しそのために必要な売上はどのくらいか、売上をあげるためにどのような計画をたてれば良いか、自身の目標を出し、グループに分かれて議論を深めました。今後、2年間でPDCAを回しながら、施設運営・作付計画に基づいた収支計画を実践し、工賃向上の目標達成に向かって活動していきます。



第1回オンライン研修会 農福をめぐる情勢について

農福経営実践塾では、集合型の研修だけでなく、OB・OGや他の塾のみなさんにも輪を広げ、オンラインで学ぶプログラムを企画しています。第1回目は、8月26日に農林水産省の農福連携推進室の藤田室長に「農福をめぐる情勢」についてご講演をいただきました。

また、久しぶりに集まった農福連携実践塾塾生・OB・OGの近況報告を実施。「入塾時に立てた売上目標2倍を達成した」「利用者さんも増え工賃6万円を達成した」「初めての作付けで不安だったが、甘くて美味しい雪下たまねぎができたなど、塾で学んだことが、嬉しい成果に繋がっていることが報告されました。」



販路拡大研究会

第4回お菓子の販路拡大研究会 分科会活動で新しいチャレンジを

第4回販路拡大研究会は7月10・12日で石川県かほく市にある（社福）眉丈会創案で開催。第4回は、それぞれの販路拡大に向け具体的な活動をするため3つの分科会を作りました。今まで失敗を恐れてチャレンジできなかったことも、分科会の中で仲間と一緒に検証しながらやってみる事に。たとえばSNSのアカウントを立ち上げても活用されていない状況の解決に向けての活動や、集客を増やすためのチラシやイベントの企画など、中崎会長の助言をいただきながら、次回の研究会までにブラッシュアップする事になりました。2年後の目標工賃とそれに向けたアクションプランの発表を行い、第4回研究会を終了しました。



第3回 Hi-roshimarkt

事業所でつくる商品を知ってもらい 売上拡大を目指す マルシェを開催（広島県）

夏休み最後の8月31日、「第3回Hi-roshimarkt（ヒロシマルクト）」に約800人ものお客様が集まりました。福祉事業所で働く利用者さんの給料アップを目的に、ヒロシマルクト実行委員会がマルシェを企画。県内23の事業所が出店し、パンやジェラート、野菜、こだわりのコーヒーやチョコレート、雑貨等々を販売しました。キッチンカーや輪投げなど縁日のお店も登場。「音楽×福祉」をテーマに、ダンスパフォーマンスやアートイベントなど盛りだくさんです。お客様も楽しみながら事業所の商品に触れ、お買いあげいただく機会になりました。



働く力と工賃向上テキスト制作委員会

実践塾での理論と実践を 1冊にまとめる

第9回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞者故新堂薫氏を塾長とした「新堂塾」のメンバーと、新堂塾アドバイザーの菅野敦氏（東京学芸大学名誉教授・（社福）武蔵野千川福祉会理事長）が、協同で執筆するテキストを発行することになりました。

目的は、職場環境を改善し仕事を決め、利用者の働く力を伸ばす理論と塾生の実践を記録したテキストを、全国の事業所が活用し、利用者さんの工賃向上に繋げていただくことです。

菅野敦氏を委員長とし、本年5月に羽田クロノゲート会議室で制作委員の実践を報告・テキストの内容検討をスタート。2026年3月発行を目指してそれぞれ執筆を開始しています。



ヤマトの力が 障がい者施設の お役にたっています！

ヤマト福祉財団は、ヤマト運輸労働組合と連携して障がい者施設の収入アップと、地域で繋がる事を目的に農業のボランティアプロジェクトを春・秋の年2回、2カ所で開催。今年は、埼玉県と長野県で実施しています。

5月31日 埼玉福興株式会社・ヤマト運輸労働組合東松山支部

4日分の仕事を支部のみなさんが 2時間で完了！！

埼玉県熊谷市、利根川沿いに広大な農地を有する埼玉福興株式会社の収穫のお手伝いに、ヤマト運輸労働組合東松山支部の36名が集合しました。

当日は、あいにくの大雨。予定していたジャガイモの収穫を急遽、タマネギの調整作業に変更しました。大きなハウスで、収穫後に乾燥させていたタマネギの茎と根っこをカットする作業です。

埼玉福興で働く利用者さんは、「熊谷の暑さは日本一だから、炎天下の作業が大変」「タマネギは収穫したあとの作業が重い大変なので、手伝ってくれてありがたい」と話してくれました。

埼玉福興代表の新井利昌さんは、「今日は、私たちが4日間かけて行う作業を、みなさんにお手伝いいただいて、なんと2時間で終わることができました!! このタマネギは食品加工メーカーに原料として販売されます」と、施設の紹介をしていただきました。

「お店に並んでいるのはきれいなタマネギ。泥がついているタマネギに触って、どんなに手がかかっているのか感じてほしい。今日の体験で我々にもできることがあるとみんなも思ったと思います」と東松山支部の森系執行委員長(当時)。

秋の再開を約束して、作業を行った玉ねぎや、埼玉福興で生産する水耕栽培の野菜をお土産にいただきました。

DATA

埼玉福興株式会社
(埼玉県熊谷市)

障がいのある方、一般企業で就労が困難な人々を受け入れる「ソーシャルファーム」として、さまざまな背景を持った人々が、共に働き活躍する社会の実現をめざしています。野菜の水耕栽培、オリーブや深谷ネギの苗、白菜、タマネギなど10町(東京ドーム2つ分)の農地で生産。また、地域の観光資源としてガーデンづくりを始め、体力がベースダウンしていくメンバーの仕事にもなっています



DATA

社会福祉法人くりのみ園
(長野県上高井郡小布施町)

1997年、小布施町郊外に設立。20名の利用者さんが中心になって平飼養鶏2,000羽、5ヘクタールの田畑で有機農業に取り組んでいます。畑の草を除草して養鶏の餌にし、鶏糞を畑の肥料にする自然循環農業を実施。「おぶせのたまご」はさまざまな賞も受賞しています。



6月7日

社会福祉法人くりのみ園・ヤマト運輸労働組合長野支部

2.5反、約8トンの玉ねぎを 1時間半で収穫しました！！

梅雨の合間の晴れに恵まれた一日、長野県小布施町にあるくりのみ園が、今回、収穫をお手伝いする施設です。

小布施町郊外の5ヘクタールの農地で、養鶏やタマネギ、ニンジン、ナス、お米の栽培などを有機農法で行っているくりのみ園。

当日は長野支部のみなさんや関係者をあわせて35名が、玉ねぎの収穫をお手伝いしました。2.5反(0.25ha)の畑にあるタマネギを手で土を除け、掘り出してその場においていきます。長野支部大森執行委員長(当時)の「労働組合が一丸となって、くりのみ園さんのお手伝いをさせていただきたい」というかけ声で作業がスタートしました。

1時間を過ぎると収穫が終わりそうで、急遽、他の畑で乾燥させているタマネギの茎を切り、コンテナで運ぶ作業を追加しました。

当日は、財団の山内理事長も参加。利用者さんと一緒に汗をかいて収穫を行いました。長野支部の参加者は、「普段はスーパーのタマネギしか知らない。現場を体験してここまでになる苦労が分かった」「担い手不足を聞いた、協力していくのも必要だと思う」、「子どもと一緒に参加できて良かった」。

くりのみ園の利用者さんは「みなさん、タマネギをとるのも、茎を切るのも、運ぶのも早かった、助かった」と話しています。





100周年を迎えるデフリンピック 11月15日、東京にやってきました！

「デフリンピック」をご存知ですか？デフ（Deaf）とは、英語で耳がきこえないと言う意味で「きこえない・きこえにくい人のためのオリンピック」です。今年は第1回から数えて100周年にあたる第25回デフリンピック。しかも日本では初の大会です。その見所などを（一財）全日本ろうあ連盟デフリンピック運営委員会 事務局長 倉野直紀さんにお伺いします。



第23回夏季デフリンピック競技大会 サムスン2017 写真提供：（一財）全日本ろうあ連盟

東京大会は多様な人たちの 協働運営の道を選びました



（一財）全日本ろうあ連盟
デフリンピック運営委員会
事務局長 倉野 直紀さん

…まずはデフリンピックの歴史から教えていただけますか？

倉野 直紀（以下倉野） 100年前の1924年、仏のろう者スポーツ連盟のアルケ会長が第1回パリ大会を開きました。当時はきこえない人に対する偏見が厳しくこの状況を変えたいと「国際スポーツ大会をきこえない当事者が運営することで、きこえなくても、こんな立派な大会を実現できる」ことを社会に示そうとしたのです。

…ではボランティアも障がいのある方しか参加できないのですか？

倉野 東京大会は過去の歴史に縛られずあえて「きこえる人とともに協働運営する道」を選びました。デフリンピックの認知度があまり高

くないのは、きこえない人だけで運営してきたことで、逆に社会との間に壁を作ってしまったからかもしれません。今大会は障がいのあるなし、日本人・外国人などいろいろな壁を取り払い「共生社会と運営の新しいモデルを形にしよう」と、みんなの意見が一致しました。

…東京大会の参加者や規模はどれくらいになりそうでしょうか？

倉野 今回は約80カ国が参加し選手・スタッフ数は約6,000人と、過去最大の規模を想定しています。そこで約3,000人のボランティアを募集したんです。

…手話がなくても大丈夫ですか？

倉野 こだわっていません。より多様な人に関わっていただくことで、きこえないことや手話言語に対する理解を、世の中に広めるきっかけにしたいんです。

…どれくらい集まりましたか？

倉野 去年の11月中旬から募集を始め、1月末の締切までに、なんと1万9,000人近く申し込みがあり、私たちも驚いています。

全21種目を12日間で

メダル大国・日本の活躍に注目

…どんな競技があるのですか？

倉野 団体・個人を含めて21種類の競技が行

ヤマト運輸は、
全日本ろうあ連盟デフスポーツ振興
スポンサープログラムの
ゴールドパートナーです。

4年に1度の熱戦が21種類の競技で!



陸上／バドミントン／バスケットボール／バレーボール／ビーチバレーボール／ボウリング／自転車(ロード・マウンテンバイク)／サッカー／ゴルフ／ハンドボール／柔道／空手／オリエンテーリング／射撃／水泳／卓球／テコンドー／テニス／レスリング(フリースタイル・グレコローマン)



「ヤマトと日本の期待の星!」 射撃の濱谷秀平さん

LOOK!

ヤマト運輸(株)東京都内営業所で受付業務を担当する濱谷 秀平さんが、東京2025デフリンピック「射撃：10mエアライフル」の選手に選ばれました。彼の活躍からも目が離せません。

情報・写真提供：特定非営利活動法人川崎市ろう者協会



写真提供：(一財)全日本ろうあ連盟

われます。

…倉野さんが期待されている競技は?

倉野 私は運営側ですし、全競技・全選手の活躍に期待していますよ(笑)。

…マスコミが注目しているのは、過去2大会連続で金メダルを獲得した女子バレーや複数のメダル実績がある陸上、水泳、卓球。さらに今回、新たに日本人選手が参加することになった射撃、テコンドー、ハンドボール、レスリング。射撃の選手は、きこえる世界の中でもメダルを獲得した選手がいます。

…射撃選手の濱谷秀平さんは、ヤマト運輸の社員です。2年前に偶然、職場で日本パラ射撃連盟のコーチと出会い競技を始めて、選手に選ばれたと聞いています。

倉野 そうなんです。彼は、上達が早いんですね! 日本はメダル大国と言われていて、現在の世界ランキングは6位。それが東京大会でどう変わるかにも注目しましょう。

競技の感動以外にも人々に多くのことを考えさせてくれる

…パラリンピックには独自の競技ルールがありますがデフリンピックは?

倉野 まったくきこえない選手にも、目で見える視覚保障を工夫し、フェアに戦えるようにしています。陸上や水泳では、ピカッと光るスタートフラッシュを、サッカーなどでは審判は笛とともに旗を揚げたりしているんです。

…いろいろな工夫されていますね。

倉野 でも基本的な競技ルールはオリンピックとほぼ同じ。だからデフ競技には特別な審判資格はなく、一般競技の国際審判の資格が良いのです。世界中からきこえない審判員が集まっていただき、日本人のきこえる審判員と力を合わせ運営する姿にも注目ください。

LOOK! デフリンピックにはこんな見所や凄い技術も!

きこえないからこそ駆け引き

たとえば卓球のダブルス戦。チームメイトに目に見える形でサインを出しますが、それは相手にも見えてしまう。そこで真偽織り交ぜ「このサインは嘘? 本当?」と相手を混乱させる作戦が陰で展開されているんです。

ユニバーサルコミュニケーション技術

東京都が進めるユニバーサルコミュニケーション技術にも注目! これは音声で話したことが、瞬時に文字化され、透明ディスプレイに映し出される技術で、公共施設や交通機関に設置される計画になっています。

…日本では、きこえない方が国際審判資格を取るのには難しいのでは。

倉野 日本では福祉の手話通訳制度を、病院や市役所での手続きなど日常生活の範囲でしか利用できないことが多い。しかし、世界は違う。たとえば国際サッカー連盟は、多様性の考え方に基づき、障がいのある審判員や指導者を増やす取り組みを進めています。

…デフリンピックの開催は、改めて多くのことを考えさせてくれますね。

倉野 選手たちは、プレイヤーとして純粋に競技を楽しみ、高みを目指し努力しています。それは芸術でも仕事でも同じです。障がいの有無など関係なく、社会や企業が正しく評価できるか。選手たちの姿を見て、そんな問いかけもできたらと思っています。



山内理事長から修了証を受け取る新卒業者

必要とされる、 働く喜びをかみしめて

4月19日、埼玉県の志木市民会館で「第17回卒業者の集い」を開催しました。当日の主役は、2024年度に(社福)ヤマト自立センターから企業へ就職したスワン工舎新座12名とスワン工舎羽田4名(欠席7名)。さらに10年以上の勤続を達成した永年勤続者6名です。



永年勤続者には、スワン工舎のロゴ入りマグカップとデジタル時計も贈呈



新卒業者たちとご家族、さらに歴代卒業者や関係者と一緒に



「職員が気づかないところまで丁寧に对应してくれる」「辛い大変なときも、あなたがいるとバツと明るくなる」「いつまでも楽しく一緒に仕事をいきましょう」そんな担当者からのメッセージに思わずはにかむ方も



表彰された永年勤続者の就労先

株式会社モンテローザ、株式会社クックサン、株式会社エービーシー・マート、スギスマイル株式会社

表彰式のあとは、料理やクイズ大会が用意された懇親会へ。松浦由美業務執行理事が「今日集まったなかで一番長く勤続している方は16年目になります。そんなみなさんの頑張りを支え続ける職員にも、労いの言葉を贈らせてください」と乾杯の音頭を取ると、一斉に「カンパニー」と元気な返答が。参加者たちは1年ぶりに再会した仲間や職員たちと、いつまでも話題が尽きない様子です。

続いて永年勤続者の表彰へ。スワン工舎職員は「長く働き続けることは簡単ではありません。一人ひとりが日々努力を続けた結果ですが、それもご家族、会社の方々のあたたかいご配慮があればこそです」と感謝の気持ちを込めて、受賞者を紹介していきましました。

そして、新卒業者一人ひとりに修了証を授与。名前を呼ばれた初々しいスーツ姿の9名は、ちょっと緊張した面持ちでステージへ。お祝いに駆けつけたご家族、来賓、関係者、さらに歴代卒業者73名からの盛大な拍手が、晴れの日に花を添えました。

開幕で山内理事長は「ヤマト自立センターは、来年20年目を迎えます」と挨拶。「本日お集まりいただいた方も、これまで卒業されたたくさんの先輩方も、何かあったとき互いに励まし合い相談できる大切な仲間です。みなさんが、より豊かで楽しい人生を送ることができるよう、ヤマト自立センターは、これからも支援し続けていきますし、ヤマト福祉財団も応援をしていきます」と伝えました。

もっと豊かで楽しい人生を送るための支援をこれからもずっと

YWF TOPICS

2025年夏のカンパより6,243万2,000円のご寄付をいただきました
誰もが幸せを感じられる社会をつくることに役立てていきます



本年度も、ヤマトグループ企業労働組合連合会ならびにグループ各企業関係団体のみなさまより夏のカンパのご寄付をいただき、9月18日に開催されたヤマト運輸労働組合第80回定期中央大会(新潟県・湯沢カルチャーセンター)の中で、贈呈式が行われました。

ヤマトグループ企業労連の森下会長よりカンパの贈呈をいただいたあと、挨拶に立った山内理事長は、「みなさまの本当に熱い熱い、貴重な志を頂戴することができました。ここに集まる職場を代表するみなさま、職場の仲間みなさま、本当にありがとうございます。みなさまからの浄財は、障がいのある方の自立と社会参加に役立てていきたいと思っています。

現在、日本で障がいのある方は11人に1人とされています。みなさんの職場、あるいは地域社会で、11人に1人は何らかの障がいを持っていらっしゃるということになります。あるとき、車椅子の方とお話をした時にこんなことを言っておられました。

『私たちは確かに歩けない。だから車椅子を使っているけれど、歩けないことが障がいじゃない。車椅子があれば、お店にも旅行にも行ける。ただ、移動の時にスロープがない、段差があって車椅子が乗り越えられない。そこで進めなくなることが障がいになる』

つまり、自身に「障がい」があるということではなく、それを補うべき社会や環境のあり方次第で「障がい」が生まれてしまうということです。例えば知的障がいの方であっても、不得手な部分を我々が補うことによって、障がいがあるのではなくないということではないかと思えます。

私たちの社会も同じです。ヤマト福祉財団を作った小倉昌男の意思を継いで、今日、みなさまからいただいた浄財を、障がいのある人もない人も、一緒になって幸せを感じられる社会を作っていくものに役立てていきたいと思えます。温かい志をありがとうございました」と、組合を代表するみなさまに感謝の意をお伝えしました。

2025年度ヤマト福祉財団奨学金贈呈式を行いました

ヤマト福祉財団では、社会の役に立ちたいと学ぶ障がいのある大学生に月額5万円(返済不要)の奨学金で応援しています。
今年度は、78名の応募があり、12名が選考されました。



佐野夢果さん
慶應義塾大学
環境情報学部環境情報学科1年



政岩琉汰さん
同志社大学
法学部政治学科1年



野口真優さん
関西国際大学
教育学部教育福祉学科1年



高嶋雄大さん
早稲田大学
基幹理工学部表現工学科3年

社員みなさんへ、年末繁忙期にひとときの家族団らんを

スワンクリスマスケーキの始まり

1998年に障がい者の自立、社会参加を支援する事業モデルとして設立した株式会社スワン。6月にスワンベーカリー銀座店を開きました。これがスワンベーカリーの始まりです。

ベーカリーとあわせてクリスマスケーキの販売も始まります。

クリスマスケーキの販売は、朝から夜まで忙しい年末繁忙期、社員にせめてクリスマスケーキを囲んで、家族団らんのひとときを過ごしてほしい・・・そんな思いからスタートしました。

1998年のテストを踏まえ、翌1999年に関東圏で冷凍ケーキをテスト販売。2000年に正式に全国展開をはじめ、その年は26,043個を販売しました。2001年にはモンブラン、チョコレート、フルーツとケーキの種類が3種類に増え、49,000個を社員にお届けしました。

2008年には、原材料に卵・乳製品を使用しないケーキを開発。乳製品が入ったケーキが食べられないお子様と一緒にケーキを囲んでいただけるようになりました。卵・乳製品を使用しないケーキは、年々開発を重ね、今では8大アレルゲン不使用*ケーキとなっています。

8,000人の方々からご回答をいただいたアンケート内容を商品開発に活かし、今年もスワンのクリスマスケーキができました。

是非、ご賞味ください!!

※独立した製造ラインで製造し、卵・乳・小麦・そば・落花生・くるみ・えび・かにアレルゲンについて検査したのちに出荷しています



◀始めて全国展開した2000年のチラシ



▶2001年はケーキが3種類に



◀2008年から発売されたアレルゲン不使用ケーキ

2025 スワンのケーキでメリークリスマス!!



ハッピーネコサンタ

苺クリームと苺のダイス・フィリング、チョコプレートでサンタの帽子を載せたネコがカワイ



ハッピーネコ球チョコケーキ
(8大アレルゲン不使用)

新潟県産コシヒカリの米粉を使用したココアスポンジで豆乳チョコクリームと冷凍苺をサンド

お申し込み 10月20日(月)~11月20日(木)

お届け期間 12月20日(土)~12月24日(水)

●障がい者施設からもご予約いただけます。

お問い合わせは

株式会社スワン ☎ 0120-230-787



ハッピーモンブラン

渋皮入りのマロンホイップ、マロンクリーム、渋皮栗のトッピングでマロンをたっぷりどうぞ



ハッピーガトー・フロマージュ

甘酸っぱいチーズケーキを載せ、じっくり焼き上げました



ハッピーア・ラ・カルト

8種類のケーキ、美味しさを選んで楽しんで!!



ハッピー
ビーフシチューパイ



ハッピーMerry
デリセット

ケーキに合わせて、ビーフシチューパイと野菜のキッシュ・グラタンサンドはいかが?

